



# 市民の願い実現に一生懸命!

## 原発事故対応で市をうごかしました 地震化の早実現を



福島第一原発の事故発生当初、市は大気中の放射能測定にも、不安をおおることになるなど消極的でした。共産党市議団は、市民の不安の声を受けとめて申し入れを重ね、放射能測定器を5台購入させることができました。

食品の放射能測定についても議会で再三取り上げてきました。消費者庁から検査機器が借りられることになり、3月から市内小中学校と保育園・幼稚園の給食、ファーマーズセンター等の野菜の測定が始まりました。

さらに測定器の台数を増やし、食の安心・安全を守るよう、求めています。

最近では風評被害などに対する農業者への支援など、申し入れをしています。

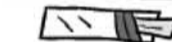


放射能測定が始まった食品測定器

### 紙 おむつ助成が拡大

これまで要介護3～5の寝たきりの方だけだった紙おむつの助成の対象が、要支援1～要介護5の方へとひろがりました。共産党市議団は対象の拡大と助成の増額を訴えてきました。さらに現在5000円分の助成額を引き上げるためにがんばります。

### 配 食サービス 100円値下げ



高くして利用者が少なかった高齢者配食サービスの費用負担を600円から500円に値下げさせました。さらに利用が増えるよう、お知らせの工夫など要求しています。

### 広 報の配布方法改善

新聞折り込みだけだった市の広報を他市と同様に、全戸に配布するよう求めてきました。要求の一部が実り、新聞を取っていない人にも、希望すれば個別に配布されることになりました。

希望される方は、市役所広報室までご連絡ください。

### 保 育園・学童クラブ 定員アップ実現

保育園・学童クラブの待機児解消は市民の願い。つめこみにならない配慮をしつつ定員を増やすよう求め続け、増設による保育園の0～2歳90人増、学童クラブ35人増が実現しました。



学童クラブの様子

赤さびが出る学校の水道が改善されます!



### 緊 急通報システムの対象拡大を後押し

高齢者緊急通報システムは孤立死を防ぐ有効な手段ですが、対象は65歳以上の独り暮らしや高齢者のみの家庭です。最近の例から、同居者の急死や外出時なども考えに入れる必要を訴え、対象拡大を検討するとの答弁を引き出しました。

### 介 護保険料の値上げ抑制に貢献

共産党市議団は、介護保険料の負担軽減を再三求めてきました。この度、近隣市が値上げする中で、基本料金の値上げを100円に抑え、収入の少ない人の保険料を一部引き下げました。これは多摩26市中、低い方から4番目となります。

### 学 校設備が改善!

共産党市議団として学校訪問を行ったところ、夏休み明けなどにはバケツの底が見えないほど赤サビが出る水道、においのきついトイレなど、大変な学習環境がわかりました。こどもたちのための改善を求め、水道設備などが改善されることになりました。



## 日本共産党あきる野市議団

### 「るのバス」運行して11年がたったのに…

多摩26市中、バス1台での運行はあきる野市だけです。循環バス運営費補助金(24年度は1,230万円)をこれ以上出せないというのがバスを増やさない理由です。共産党市議団が、「足の確保」についての考えを質問すると、市長は、あきる野市はマイカーを利用する土地柄だと、市民の願いに背を向ける答弁をしました。引き続きバスの台数を増やし、増発・増便するよう求めてがんばります。

### 観光事業重視と いいながら

観光予算では、観光推進事業経費1,350万円があるのに、さらに、秋川渓谷観光プロモーション事業経費に1,074万円計上しています。一方で市も重要な観光資源と位置づけている、五日市憲法草案が発見された深沢家には、駐車場を整備する気もありません。共産党市議団は早急に駐車場を整備するよう求めています。

憲法草案発見の深沢家土蔵



# 税金の使い方が 確かな力



### 小・中学校にエアコン設置 計画もないのはあきる野だけ

夏の猛暑が続く中で、各自治体で小・中学校の普通教室にエアコン設置が進んでいます。東京都で設置の予定も計画もないのはあきる野市だけです。東京都との交渉では、やる気がある自治体には補助金を出す、やる気がないと判断されたら補助金を打ち切ると言われました。早期に設置するよう今後も求めていきます。

### 秋川駅自由通路に エレベーター設置を

秋川駅の自由通路は、バリアフリー法にも反し傾斜がきつく高齢者や障がいがある方などにとって危険です。共産党市議団は、エレベーターを設置し、市民が安心して通行できるよう早急な整備を求めています。



傾斜のつよい自由通路

### 引田区 画整理 事業経費 1,336万9千円



武蔵引田駅周辺土地区画整理事業には、今年度も委託料として1,336万9千円計上していますが、肝心の区画整理事業がいつ始まるのかも現在のところ明確に決まっていません。

計画がはじまってから12年、工事は進まず下水道も入らないままです。地権者の高齢化も進んでいます。今後、この事業を進めるには、下水道を先にとという切実な声や農地を守れという農家の声など、住民の意見をよく聞きながら進めるよう求めていきます。

### 恵みの 森づくり 事業経費 2,763万2千円

バブルの秋川市時代、企業誘致の目的で土地開発公社に借金させ購入した土地が売れ残って、いまや二束三文。この山林を、市は都に31億円も借金して公社から買い戻しました。この借金のための計画が、「郷土の恵みの森づくり」事業です。

借金返済は27年度から毎年1億4千万円にのぼります。今年は事業経費だけで2,763万円。これらの税金を教育や福祉に使えたら、市民のさまざまな要望に応えられるはず



大沢の残土の山